

京田辺市上下水道事業経営審議会(第1回)議事録要旨

日時：令和5年7月11日(火) 午前10時～午前12時

場所：京田辺市上下水道部事務所 2階 大会議室

委員出席者：山田会長、米田副会長、奥田委員、津熊委員、赤尾委員、曾和委員、小長谷委員、玉井委員、寺本委員

(会長、副会長を除き、京田辺市上下水道事業経営審議会規程第2条に示す第1号委員から第3号委員の順、各号内で順不同)

出席者： 上村市長

事務局出席者：高田公営企業管理者職務代理者、村上上下水道部副部長、上杉経営管理室担当課長、竹村下水道課長、平岡上水道課長、尾崎経営管理室企画経営係長、

事務局補佐：株式会社日水コン3名

傍聴者：1名

(議事要旨)

- 1 開会
高田公営企業管理者職務代理者から委員に委嘱状を交付した。
- 2 挨拶
京田辺市長 上村 崇 より開会のあいさつを行った。
- 3 委員の紹介
事務局より各委員の紹介を行った。
- 4 関係職員等の紹介
事務局より事務局員(市職員)の紹介を行った。
- 5 京田辺市上下水道事業経営審議会について
事務局より本審議会の設置条例等について説明を行った。

6 会長と副会長の選任

事務局より定足数の確認を行うとともに、審議会規程第3条第1項の規程に基づき、委員の互選により、会長に山田委員、副会長に米田委員が選出された。

7 諮問

会長が公営企業管理者職務代理者から諮問を受けた。

8 審議事項

(1) 審議会の会議の公開・非公開について

審議会の会議は原則公開することを決定した。

(2) 京田辺市水道・下水道ビジョン、水道・下水道事業経営戦略の概要について

事務局から以下の内容を説明

- 京田辺市水道・下水道ビジョン、水道・下水道事業経営戦略の改定
- 京田辺市水道・下水道ビジョンの概要
- 京田辺市水道・下水道事業経営戦略の概要

【主な質疑】

(委員) 下水道ビジョン概要版について、大住大坪地区のマンホールポンプはどういった役割を持っているのですか。汚水を集めて八幡の広域処理場に送水する役割でしょうか。

(事務局) マンホールポンプは、標高の都合上自然流下で送水できない場合に加圧送水するための施設です。送水先は八幡の処理場です。

(委員) 小規模の処理施設（農業集落排水施設）で対応している地域があります。この地域を流域下水道へ接続するかどうかは検討課題です。

(委員) 大雨によって下水道から水が噴き出す等の被害が出たことはありますか。

(事務局) 被害が出たことはありません。また、京田辺市の下水道は、雨水用の管路と汚水用の管路を分ける分流式であるため、今後も大きな被害は出ないと考えています。

(委員) 水道料金の改定についてどのように考えているのでしょうか。

(事務局) 現時点では今後10年は予定していません。ただし、経営戦略を見直す中で、財政見直しを行い、料金改定の要否を検証する必要があると考えています。

- (委員) 浄水処理において新規の化学物質に対しては処理できるかどうか、コストはどうかといった視点からどの手段を選択していくかを市民が判断していく必要があると考えています。
- (委員) 土管の対応年数は何年くらいなのでしょう。
- (事務局) 上水道管は一般的に 40 年といわれています。管種によっては 50 年、100 年といった管もあります。現在、40 年が過ぎた老朽管を耐震管に布設替えしているところです。
- (事務局) 下水道管は一般的に 50 年といわれています。50 年が過ぎた老朽管は管更生を行い、老朽化対策を行っています。
- (委員) 新型コロナウイルス蔓延による影響で水の使用量はどのように変化しているのでしょうか。
- (事務局) 用途別で傾向は異なっています。生活用水量は増加しており、そのほかは減少していました。令和 4 年度に時点では少しずつ元の傾向に戻りつつあります。
- (委員) 先ほどマンホールから噴き出すような被害はないとおっしゃれましたが、突発的な事故や自然災害への対策については、想定外を視野に入れて検討していただきたいと考えている。京都府の用水や広域下水道処理場の値上げはありうるのでしょうか。また農業集落排水は枚方市側でできるのでしょうか。
- (委員) 京都府の用水や広域下水道処理場の値上げはありうるのでしょうか。また農業集落排水は枚方市側でできるのでしょうか。
- (事務局) 京都府では、5 年に 1 回料金の見直しが行われており、値上げはあり得ます。値上げの原因としては、物価高騰や人件費高騰等といった要因が挙げられます。
- (委員) 農業集落排水は枚方市側でできるのでしょうか。
- (事務局) 標高の関係で枚方市側へ自然流下で送水できないことから、現実できてないと考えています。
- (委員) 京田辺市の水道料金が安い理由を教えてください。
- (事務局) 新規給水を開始する際に分担金をいただいております。この分担金を原資とする基金があり、この基金を供給単価と給水原価の差額等の一部費用に充てているため、水道料金が安くなっています。
- (委員) 基金は持続可能なのでしょうか。
- (事務局) 人口が増加すれば持続可能です。
- (委員) 流域を超えて下水道を整備することはできるのでしょうか。
- (委員) すでに施設を利用している団体との交渉が必要であることから流域を超えることに抵抗があるようです。

- (委員) 料金調整基金は供給単価と給水原価の差額に充当されるものであると認識しております。現在、供給単価と給水原価の差が 25 円ある状況でこの差は今後拡大していくのでしょうか。
- (委員) 経営戦略の見直しの中で財政見直しを行い、検証していく必要がありますね。
- (委員) 市として、滞納分を徴収する努力を行っているのか。滞納した場合は給水停止措置をとっているのでしょうか。
- (事務局) 通告したうえで給水停止措置をとっています。
- (委員) 下水道の普及状況はどのようになっているのでしょうか。
- (事務局) ほぼ普及している状態です。空白になっているエリアは農業用地等であり、このような地区は下水道を整備していません。
- (委員) 私は京都府の府営水道の経営に携わっています。上下水道事業は長期的には人口、水需要ともに減少する局面に面しているため、料金についてはほぼ確実に上がるものと考えています。今後は料金の上げ幅をどうやって抑えていくかを検証する必要があると考えています。

9 今後のスケジュールについて

事務局から説明

10 公営企業管理者職務代理者挨拶

公営企業管理者職務代理者から挨拶

11 閉会

公営企業管理者職務代理者の閉会の挨拶の後、第1回委員会を閉会した。

以上